

キューバは決して手をこまぬいてはこなかった

イグナシオ・ラモネ：『ディアス・カネル大統領とのインタビュー』

(2024年5月11日)

「想像力と科学技術と国民との対話で米国の経済封鎖を克服し、新しい社会を建設する」

(キューバ外務省 2024年5月15日)

<https://cubaminrex.cu/es/entrevista-concedida-por-el-presidente-miguel-diaz-canel-bermudez-ignacio-ramonet-catedratico-y>



—「大統領、初めに、このようなインタビューの機会を頂けたことに感謝を申し上げます。今日は10の質問をさせていただきます。大きく分けると3項目、内政、経済問題を中心とした国内状況、そして対外政策です。最初に国内政策ですが、この数年来、多くの家庭がきわめて苦しい状況におかれています。食料不足、インフレ、公共サービスの欠如です。米国による不法な経済や貿易や金融の封鎖が続いていることは承知しておりますが、お伺いしたいのは、最近になって、なぜこれほど悪化しているのか、ということです。

* 『こちらこそ、あなたとお話をする機会を持つことができ、心から感謝しております。あなたと見解を分かち合い、こうした問題について意見を伺えることは誰にとっても 大変、興味深いことです。今のご質問ですが、なぜ、これほど長期間にわたり封鎖が続いているのか、現時点で封鎖に何か変化があるのかなど、多くの人々から尋ねられます。

今日、封鎖は質的に変化しています。この封鎖の激化にはひとつの要素が関係しています。米国政府が、気まぐれに、キューバをテロ支援国家のリストに組み込んだことです。これは、キューバの人々の生活が、とくに 2019

年までと 2019 年の後半とでどのように変化したかをみていくとよくわかります。

私たちは 60 年以上にわたり封鎖による制限や逆境に苦しんできた国です。封鎖は違法かつ不正な、時代錯誤の政策ですが、そこには米国政府の絶対優位思想があります。

キューバはこれまで決して手をこまぬいてきたわけではありません。抵抗力を高めてきました。COVID-19 の感染拡大後も創造的な抵抗を続けています。

それによって経済活動や輸出、国民生活に大きく関わる社会プログラムを何とか維持してきました。封鎖の影響のために私たちの夢や願望は抑制され、遅滞させられてきましたが、生き続けてきました。封鎖はまさに私たちの経済発展を阻むブレーキなのです。いつも言っているのですが、私たちは封鎖のもとでも多くのことができた、封鎖がなければ何ができたのだろう、と。これは仮定の話であり、研究や検証、資料の分析が必要ですが、今はその時ではありません。

2019 年にはわが国は国際競争力のある国産品の輸出によって収入を得ていました。経済活動にバイタリティーがあったのです。海外からもかなりの送金があり、観光収入にも著しいものがありました。1 年に 450 万人の観光客を受け入れていたのです。いくつかの金融機関や、良好な関係を維持する国々の政府からの融資、わが国のプロジェクトを立案、支援してくれる機関からの融資もありました。

燃料を得るために、事実上、外貨をまったく費やす必要がなかったこともあります。サービスの提供で補っていたからです。

その結果、封鎖のもとでも外貨収入を原料輸入や主要な生産部門の発展や国民の基本的生活に充てたり、店舗で食料その他の物資を販売することもできました。当時は兌換ペソ (CUC) の店です。キューバ通貨のメルカードもありましたが。つまり国内市場への供給をある程度、維持できていたのです。

合法的な為替市場を開くだけの外貨もありました。国が統制するものですが、国内通貨 と等価で外貨の売買ができました。外国や、外国投資、つまり企業への債務を支払うこともできました。部品購入のための外貨もありました。これはわが国の経済にとって最も重要なものです。国内市場の供給が可能となり、需給関係も適切となって、インフレも抑制できました。

つまり、こういうことです。生産過程が良好だったために輸出が増加し、観光業の発展により収入が増え、私たちの願いである「繁栄」にまでは至りませんでした。安定が得られたことにより、「経済社会システムの完成化」

を進めることができたのです。この「完成化」のビジョンや理念や路線は「2030年経済社会発展全国プラン」に記されています。

— 2019年までですね。

* 『2019年の後半までです。19年後半にはトランプ政権が封鎖を激化させ、240以上の政策を導入しました。ここから新しい局面が始まります。ヘルムズ・バートン法のタイトルも初めて適用されました。それまで一度も適用されなかったものです。中でも最大のインパクトがあったのは外国投資への圧力です。既存の投資、計画中の投資などに対して適用されました。接收は正当な権利であるのに、圧力は革命直後に革命政権が接收した資産の一部にも及びました。

封鎖の激化とともに外貨収入が減少し、観光も大幅に縮小しました。米国政府は米国市民のキューバ観光の権利を否定したのです。キューバ渡航の重要な部分であったクルーザーも閉鎖されました。エネルギーや融資への迫害が大規模かつ組織的に行われました。制裁を課されたり、米国の圧力にさらされた銀行や国際金融機関は92以上に達します。その結果、キューバとの金融取引は止まりました。

送金もカットされました。国にとって重要な収入源でした。友好国や兄弟国に対する圧力や制裁も厳しくなり、燃料も不足し、外貨もマイナスとなりました。

その結果、電力システムが不安定になりました。国産石油を使い火力発電を行っていたのですが、それだけでとくにピーク時には、電力需要をすべてカバー出来ていたわけではありません。ディーゼルやフューアル・オイルを使って発電プラントを動かさなければなりません、持っていないので、電力不足となります。

外貨は限られ、電力システムを稼働するための部品などの入手も困難なうえ、設備が老朽化しているため故障が多く、メンテナンスに時間がかかり、電気の供給に影響が出ます。停電を避けるために生産活動を停止したり縮小したりすれば、経済活動に影響が出ます。

わずかな外貨を燃料の購入に充てなければならず、生産のための資材や原料も入手できなくなりました。しかも、国際市場では様々な価格が上昇しています。世界が多角的な危機に陥っているときでもありますから』。

— COVID-19も始まりました。

* 『ええ。2020年からです。これは後でお話します。

多元的危機ですが、国際市場価格の上昇も一つです。気候変動の影響もあります。わが国では激しい干ばつ、豪雨、大型ハリケーンのために経済は大きな打撃を受けました。その結果、医薬品不足、食料不足、燃料不足となりました。

— 輸送問題もあります。

* 『輸送もそうですが、社会計画や国民の福祉にも影響が及んでいます。非常に複雑な事態が生まれています。

2020年1月に、トランプがホワイトハウスを出る8日か10日前ですが、私たちをテロ支援国家に含めました』。

— テロに味方する国のリストですね。

* 『そうです。たちまちのうちにあらゆる銀行や金融機関がクレジットの供与を停止しました。そのため私たちは普通預金で生きていかなければならない国になりました。今週はいくら入るから、それをどうやって膨大な額に及ぶ国の最優先課題に振り分けるか、ということになったのです。たった1週間の入金で足りるようなものではありません。

外貨にも影響します。外貨の必要性は高まっており、外国企業への配当、外国や企業への債務の支払いをきちんと果たす能力はありません』。

— パリクラブもあります。

* 『どんなに頑張っても、どんなに頭を働かせても、財やサービスの提供に必要な経済活動を発展させることができなくなりました。需給の不均衡はとてつもなく大きくなり、価格は上昇し、インフレが高まりました。国の合法的な為替市場を動かす外貨もなくなりました。そのため非合法的な市場が出現しました』。

— 並行市場、闇市場ですね。

* 『為替率が操作され、価格の上昇やインフレをもたらしました。

そこにCOVID-19がやってきました。キューバだけではなく全世界が影響を受けました。人道という革命の理念から言っても、COVID-19のもとでの基本的目的は人間の命を 救うことにあります。そのため、あらゆる努力と限られた外貨の重要な部分を、住民の命を救うために充てました。まず、病いに立ち向かうという原点に立ち、キューバのバイオテクノロジー産業がそれまでに開発してきた医療機器やバイオ製品を利用しないしは転用しました。いずれもCOVID-19に一定の効果をもつ医薬品です。今、振り返れば超人的な努力でした。わが国の科学者の模範的成果とも言えます。「特別期」、つま

りソ連解体による危機の時代にフィデル・カストロ総司令官が打ち出した構想が実ったのです。フィデルは科学生産ポーク（Polo）を発展させました。科学とイノベーションと生産を統合した極をつくったのです。生産、流通、販売を一つのプロセスとして集約した地域です。この発展がなければCOVID-19には対応できなかったでしょう。」

— COVID-19 の問題に移る前に何か付け加えておきたいことがあればお願いします。

* 『はい、とくにキューバの保健システムの成果についてお話しできればと思います。』

— 是非、お願い致します。

* 『ええ、でもその前に一点、未だに続いていることです。封鎖の激化について重要なのは、実施したのは共和党のトランプ政権ですが、民主党のバイデン政権も維持しているということです。4年にわたり続いているのです。しかも体系的に実施されており、わが国の国民に大変複雑な状況をもたらしています。とてつもない邪悪な行為に苛まれているのです。COVID-19 のときにお話しします。』

— 大統領、今、話されたキューバ国民を苦しめている問題について、ひとつ、お話いただければと思うのですが。停電のことです。

* 『停電ですね。』

— 多くの市民がもっとも苦しんでいる問題の一つではないかと思っています。

現在のエネルギー事情についてどのように評価されますか。今、いくつかの要素と言われましたが、キューバの市民に対して、解決の見通しについて何か伝えることができますか。

* 『ラモネ、エネルギー問題では、今日、このインタビューの瞬間にも私たちは大変複雑な状況に置かれているのです。

電力システムが不安定な理由にはいくつかあります。今、この瞬間もそうですが、今週は全国的に厳しい停電に苦しんできました。5日以上にわたり、どの時間帯にも何らかのレベルの停電が起きているという状態が続いています。このような状態が続けば、状況は悪化し、複雑化して、不安や無理解を引き起こし、キューバの人々の生活は厳しくなります。

停電問題の要因ですが、まず、私たちの発電システムは火力発電で、国産の石油で行っていることがあります。』

— 重質油ですね。

* 『重質油で、硫黄を多く含んでいます。そのため、修繕、すなわち体系的なメンテナンスが必要になります。発電システムを維持するために年間3億ドル以上かかります。これほどの額の資金は入手できませんので、破損や技術的問題が通常のシステムよりも多発します。

このほかにも発電システムはあります。分散型発電で、主にピーク時に使います。ディーゼルとフューアル・オイルを使いますが、いずれも必ずしも必要な量を確保できていません。たとえば、封鎖のために昨年10月から先月までディーゼルとフューアル・オイルは入っていません。節約をしていたのですが、備蓄もなくなり、特に3月には停電が激しくなりました。また、こうした発電には部品が欠かせませんので維持も難しいのです。

代替エネルギー源による発電もわずかですが、あります。

私たちが抱えているのは燃料不足、メンテナンスの欠如、そしてこの二つの要因の複合です。今日では燃料不足よりも、とくにテクノロジーの問題が大きく、その他はそこまで重大ではありません。それでもメンテナンス戦略も何とかできあがり、とくにこの夏には住民への影響をいくらか軽減できていると思っています。今、いくつかの発電所のメンテナンスを計画的に、一斉に行う予定で準備しています。ただ、その他に壊れている発電所もあります』。

— 再生エネルギーはどうですか。もう、始まっていますか。

* 『解決策ですね。再生エネルギーには取り組んでいます。風力、太陽光、バイオガスです。考え方は皆、同じです。中心は太陽光です。少ない時間で建設できますので。

協定もいくつか結んでいます。保証つきです。2年以内に2000メガワット以上に達します。これによってエネルギー事情は変化します。2030年までに再生エネルギーを20%以上にする目標を立てていますが、達成できます。多分、それよりもいくらか早く25%になると思います。計画の進み具合によりますが。分散型発電が機能しなくても、ピーク時には新しいエネルギーでカバーできるかもしれません。

火力発電の所でお話ししましたように、分散型発電はピーク時用ですが、それ以外にも稼働させる必要があります。そのため予想よりも早く摩耗してしまいますので、必ずしも電力の不足分をカバーできるとは限りません。

こうした発電計画については、数週間前にエネルギー鉱山相が国民に説明しました。現在、次々と建設地を準備したり、発電所を建設したりしています。これにより発電量は増加します。今年中に重要な変化があり、来年には確立するはずで。

太陽光発電の一部は蓄電しておけば夜間に利用できます。それによって発電用の燃料消費も減らすことができます。

— **生産にも使えます。**

* 『二つの可能性がでてきます。一つは、燃料を経済、とくに食料生産、農業、生産物の加工に向けることができるようになります。いずれも主として燃料不足のために制約されている部門です。また、太陽光発電の電気を発電に使うことができれば燃料費が減ります』。

— **石油を買えるようにもなります。**

* 『国産石油を使った火力発電も楽になります。国内消費が減れば輸出できます。現在、石油の増産にも取り組んでいます。輸出が増えれば電力開発のための資金も得られます。電力開発には多額の投資がかかるのです。

これは最も持続可能な道です。わが国の環境政策や、COP の CO2 削減政策にも叶っています。

国内の製油所の効率の向上や改善のための外国投資も求めています。外資が得られれば国産石油の精製も可能になります』。

— **製油のためですね。**

* 『製油と副産物の生産です。輸出や国内消費に向けます。石油の副産物の輸入も減らせます。エネルギー消費の節約計画もあります。国民の文化にもかわりますが...』。

— **消費を減らし、無駄を省くということですね。**

* 『太陽光発電の技術も開発します。家庭用の発電機器も。電力消費が少なく、長持ちする LED 電球にも変えていきます。このようなものを組み合わせていけば、電力事情はよくなります。

精査された、詳細な計画なのですが、残念ながらそこに至るまでにこのように時間がかかっています。それでもエネルギー問題に対する封鎖の影響を克服する一つの方法になります』。

— **大統領、今、お話しされた状況や、その前提である困難や物資の欠乏などは、キューバではこれまで見られなかった社会現象を引き起こしています。抗議活動です。一方では状況に耐えられず、多くの人々が移民しています。**

抗議活動はまだ大衆的なものにはなっていませんが、これまでにはなかったもので、驚きをもたらしています。こうした抗議はどのような性格のものでしょうか。また、あなたはそこからどのような教訓を引き出されていますか。

* 『ラモネ、まず、キューバ国民は封鎖の嵐に苦しんできたのだということを忘れてはいけません。これまでもお話ししてきたように、封鎖の影響は 60 年以上にわたり蓄積されています。私たち、革命初期に生まれた世代は封鎖による欠乏の中で生きてきたのです』。

— 常に封鎖が存在していたということですね。

* 『私たちの子どもたちは封鎖の中で生まれています。孫たちもそうです。封鎖という環境の中で生きているのです。キューバの人々は封鎖の影響に直接、さらされているのです。

問題は、米国政府やキューバ革命破壊のための帝國的政策は何を守っているのか、ということではないでしょうか。

その参考になるものの一つに、マラリー・メモがあります。60 年代に米国の国務省の役人が記したキューバの評価に関するメモをベースとしたものなのですが、こんな風に述べています。「革命に対する国民の支持の高さを考えるならば、革命打倒の道は経済的締めつけ、でき得る限り国民を困窮させ、欠乏させること、それによって社会爆発を引き起こし、革命を崩壊させることだ」と。

これこそがこれまで米国がとってきた政策であり、基本的な考え方なのです。今日の封鎖激化の目的もそこにあります。60 年かけても私たちを屈服させることができなかつたために封鎖を激化させたのです。それでも私たちを屈服させることはできないでしょう。私たちは国民の対応力、勇気、今、お話しした創造的抵抗を信じていきます。

とくに今日においては封鎖の激化がさまざまな形で国民に降りかかっています。長時間の停電、輸送問題、物資の欠乏、配給品や食料や医薬品の不足などです。

停電がおきれば水の供給にも影響します。水道も電気で動いていますので。そのため太陽光発電を使って水をくみ上げるべく、多額の資金を投与しています。状況打開のための取り組みの一つです。

抗議活動はこうした状況のなかで起きたものでした。数か所で発生し、一定の参加者がありました。参加者が多かったのは 7 月 11 日で、3 月 17 日はそれよりも少なかったと思います。メディアは多くの国民が参加したと伝えていますが、これはキューバに対する侵略政策の一つですね。封鎖を激化して経済的に締めつけ、その一方で情報操作をするという政策です。キューバ革命を貶めるためのものであり、そこにはバーチャルなキューバとリアルなキューバが存在します。そのために何カ所かで国民が声をあげました。

どのような行動だったかと言いますと、ほとんどは平和的に終始しました。大半の参加者が求めていたのは説明です。革命との決裂の声ではありませんでした。人々は政府や党の機関に向かったのです」。

— サンティアゴではそれがよくわかりました。

* 『ええ。どういうことなのか、納得できる説明を求めに向かったのです。これに応えた人々は、こうした人々に対して責任を持って対応した人々は、誰だったのでしょうか。それはそれぞれの場所の党の人々や行政機関の指導者でした。声をあげた人々は国民を構成する人々ですから。警察も含めて弾圧などはまったくありませんでした。

所によっては平和的ではない振る舞いをしたグループも、小さいながら、ありました。これも帝国が進めているメディア操作の一部です。こうした人々の多くは米国政府から転覆計画のための資金を受け取っています。資金を配布するシステムがあり、反革命を煽ったり、このような機会を創りだすために利用されています。しかし、革命に反対したからといって弾圧されているわけではありません」。

— キューバ憲法では表現の自由が保証されています。

* 『弾圧されたりしていません。国民からの反応はあります。実際にあったことですが、国民はこうした動きに対し、こう言っているのです。「ちょっと待って。われわれのやるべきことは政府と話すこと、党と話すことだ」と。こうした人々は反革命的なスローガンを大声で叫んだりするようなことには反対であり、認めません。けれども革命と共に歩まないような意見をもっているからと言って、弾圧したりはしません。転覆活動ではよく見られることですが、あの時のような形で革命に反対を表明する人々は—これは少数ですが、暴力行為を行い、国の財産や社会的資産を破壊し、公共の秩序を乱します。そのためそのような行為に対しては対応措置をとります。イデオロギーを理由としたものではなく、どこの国でもやっているように、公共の秩序を乱し、市民の平穏な生活を奪い、悪事を働き、公共物などを破壊したという理由で、法的な措置をとります。

実態と、国際メディアが伝えていることには乖離があります。国際メディアには一つのシナリオがあるのです。非通常戦という台本です。まず最初に、社会爆発、異議申し立て、あるいは抗議がきます。次いで警察の抑圧、そのあとに政治犯、すなわちカッコつきの政治犯に対する弾圧、そして、そのために社会爆発が起きているという言説が続き、最後に人道的支援と体制転換、とい

うことになります。これが非通常戦のシナリオや台本で、今、キューバだけではなく、ニカラグアやベネズエラに対しても使われています。

つまり、歪曲ですね。キューバで起きたこの種の抗議活動は、あなたがおっしゃるように比較的新しい事実です。世界が変わり、私たちの社会も変わりました。封鎖の激化が引き起こしている状況も私たちの生活を変化させています。しかし、こうした抗議活動に対しては十分に配慮がなされ、説明が行われています。国民と革命の間に亀裂は生じていません。私たちには現場に向かい、常に住民と対話し、問題について情報を伝えるという活動システムがあるからです。

米国でも抗議活動が行われているのに、なぜ話題にならなんでしょう。通常、警察の野蛮な行為で終わっていますね。黒人や貧しい人々に対しては特にそうです。最近の米国の大学での抗議活動に対する警察の蛮行についても取り上げられません。まったく平和的なもので、パレスティナの大義のためであり、イスラエルが犯し、米国が支援しているジェノサイドに反対するものでした。こうした事実に対して米国政府はどのように対応したでしょうか。警察の抑圧、首を蹴り上げたりするなど、学生や、さらには教授に対する蛮行です。私たちは1人の女性教授が、高齢の人でしたが、床に倒され、抑え込まれているシーンを目にしました。このようなことはキューバでは決してありません。

ヨーロッパ諸国でも、平和的な抗議活動であるのに、デモの参加者が発砲されたり、たった2日足らずの間に3000人以上が拘束されたりしていますが、なぜ批判されないのでしょうか？ なぜキューバの抗議行動が拡幅され、あんなふうに広められるのでしょうか？

例えば3月17日にも、3か所でしたが、私たちは騒擾が起きている場所に駆けつけ、夜7時ころには平穏な状態に戻りました。あの日にはおかしなことがあったのです。日曜日で、人々がSNSを使ったりしていた時間です。まだ、朝の一時でした。問題のメディア・プラットフォームが、全国で大衆抗議が行われると伝えたのです。まったくの嘘であり、誹謗であり、でっち上げでした。

ラモネ、世界最大の大国に何を期待できるのでしょうか？ 彼らがある国を侵略するときには罪としているものは、ただ一つ、その国が自決や独立や主権を望んでいることです。大国のヘゲモニー政策の一部として、自分たちとは異なるモデルを建設したいと考える国を侵略する。そのために何年にもわたって野蛮な封鎖を行い、革命を倒すために嘘に訴える。大変、邪悪であり、大変下劣なやり方です。

もしも私たちが大きな間違いを犯している、まったく不十分である、あるいは本当に失敗している、というのであれば、制裁などせずに放っておいてほしい。けれども、そうはしないのです。これはうぬぼれやショービズムで言っているのでは全くないのですが、キューバはラテンアメリカやカリブ海諸国、また世界の模範となっています。世界で限りない数の人々がキューバとの連帯を生活の中心に据えています。それは好みの問題ではなく、模範だからです。信頼が、また、導きとなるべき光が存在しているからです。それに対し、私たちは大きな責任を感じています。裏切ることはできません。あれほどの強国が小国を屈服させるために、あのような行為に出るのはそのためなのです』。

— **大統領、2つ目の項目の質問に入ってよろしいでしょうか。経済についてですが、4点あります。**

まず初めに、あなたはキューバ経済の現状についてどのように評価しているのか、ということです。政府は、封鎖のほかに、現在の課題に対してどのような対策をとろうとしているのでしょうか。例えば、インフレです。この点についてはすでに少しお話されました。このほか、部分的なドル化と、直接投資の不足の問題があります。

* 『ラモネ、封鎖とはどのようなものかをお話したときに、部分的にお答えしましたが、今日の経済情勢はまさに封鎖がもたらしているものなのです。

この状況をどのようにして克服しているのか、という点からまとめますと、まず、経済は複雑な状況におかれていること、あらゆる経済の不均衡というものが存在しているということを認識しておく必要があります。

では、これに対してわれわれはいかに対応しようとしているのか。まず、マクロ経済安定計画を作りました。2030年までのものです。できるだけ短期間にマクロ経済を均衡させるため、コンスタントに調整していく必要があります。インフレ問題、為替市場問題、そして、言うまでもなく為替率の問題にも取り組んでいきます。そのほか、通貨政策、財政政策、国内生産や輸出の問題、さらに、賃金、年金、雇用、その他、経済システム全体の再編、融資や、資源の配分や、国有企業の役割、国有企業とその他の経済セクターとの関係に関する政策などがあります。

その前提となっているのは、一つには、国内生産をいかにして刺激するか、です。そうすれば経済主権を保持できます。国内の必要性も満たすことができます。国内市場が発展の源泉になるからです。

— **食糧主権については、特に農業が念頭にあると思いますが。**

* 『お話しているのはまさにその点です。国内に必要な食糧の重要な部分を生産すれば、食料輸入を減らせます。今、食料輸入には 20 億ドル以上が必要です。しかも、この額で必ずしも同じ量の輸入ができるわけではありません。価格や運賃が上がれば輸入は減ります。

国内生産やその生産効率が上がれば輸出競争力が生まれ、外貨収入が得られ、国内生産が持続可能になります。

国内生産、とくに食料生産は国のレベルではなく、ローカルなレベルから国レベルへ、という形をとっています。各地区 (Municipio) が、次いで各州 (Provincia) が、それぞれの自給計画を作成します。コミュニティ、地域、地区、州という風に構築していき、国レベルで食料状況を安定させるのです。

私たちはこうした食料主権政策を発展させるとともに、食料主権法も制定しました。

— 成果は上がっていますか。実際に目にしていますか。

* 『ええ、目にしています。私はこの 1 月から毎月、全国の州を回り、それぞれの州で地区を訪れています。良い結果が出ています。労働者グループがそれぞれの指導のもとでいろいろなことをやっています。誰もが封鎖の激化に苦しんでいるように、誰もが然るべき答えを見出しています。とくに食料生産では極めて興味深いものがありました。

— 他の地域にも拡大できることですか。

* 『はい。でも、例外もないわけではありません。相応の成果が出ていないところもあります。おそらく封鎖の重みがとりわけ大きい所でしょう。

私たちは「創造的な抵抗」という考え方をとっています。「今、自分たちはこれこれの封鎖の影響を受けている。それでも、これこれのことはできる、克服は可能だ」という考え方です。「インスピレーション」と言ってよいかもしれませんが、いろいろなことをやり、その経験の中からさらにより良いものを求めていく、ということでしょうか。今日の例外は、いつか法則になるのです。これは指令やプロパガンダでやっていることではありません。誰もが確信していることで、それはどこでも目にすることができます。

3 月から 4 月にかけて全国を回ったときのことで、生産も利益も上がらず、もうやっていけないと、今年の 2023 年に閉鎖されたところでした。ところが、今では状況が変わり、お話ししたようなことが始まっていました。こうした変化は時間とともに持続可能なものになっていきます。あの場でそれを確信しました。

現場を見て、なるほど納得したときには、そのやり方や経験をうまくいっていないところへもって行きます。現場で活動や求められる成果がまだレベルに達していないのを見るのも大変な刺激になります。そこには光も見えます。」

— **国では新たな生産を促進するために法律の改正が行われていますね。**

* 『国有企業が非国有部門と同じ条件で生産できるようにしていかなければなりません。国有部門にはそのための機能が備わっているのですが、まだ動いていません。企業文化がもっと進んだ、柔軟なものになれば、そうした機能が働き、インパクトをもたらします。』

基本的なコンセプトは科学とイノベーションです。私たちのような、貧しくて、資源は少ないけれども、才能に恵まれた国には一つの構造があります。フィデル・カストロ総司令官が打ち立て、ラウル・カストロ陸軍将軍が継承してきたものですが、今日のような状況のもとでも拡大され、実行されています。つまり、課題への回答を科学研究に求め、イノベーションにつなげていく、ということです。私たちは「科学とイノベーションを基礎にした政府運営システム」に賭けているのです。これをあらゆる分野で適用しています。COVID-19 でもそうでした。現在、農業、工業、食料生産で実施しています。

社会的経済的に脆弱な人々や家庭にも配慮しています。そうした人々や家庭に影響が及ばないように、不平等が拡大しないようにしなければなりません。というよりも不平等は縮小していかなければなりません。私たちが生み出す富は分配できるものです。私たちは社会正義という原則のもとに分配します。」

— **大統領、近年のキューバの変化として、市場経済の出現がありますね。とくに“mipymes”と呼ばれる中小企業の発展とともに拡大しています。こうしたキューバの経済状況の変化についてはどのように評価されますか。**

* 『この点については、明らかにしておかなければならないことがいくつかあります。』

第1に、私たちがとっているのは、市場の指標を考慮した計画経済です。純粋な市場経済を基礎にしたものではありません。社会正義という概念が存在しています。市場の法則が経済発展をリードしているわけではないのです。とくに人間の作用というものを大きく考慮しています。時折、経済至上主義という観点からキューバ経済の有効性について批判がなされています。けれども、このような封鎖された経済のもとでも、まだ、私たちの必要が満たされているというところにまで至っていませんが、重要な成果を維持しています。これは

今日も権利として継承しています。しかし、成果となって表れていない場も多いですし、また、キューバ経済の実態をよく見ていくと、あるレベルの不当性が存在していることもわかります。計画経済でありながら市場の指標や法則を認めているためです。

mipyme には国有の mipyme と非国有、つまり民間の mipyme があります。民間だけではないのです。民間部門はもともとキューバに存在していたもので、それを、今、拡大しているのです。農業生産の重要な部分も私有農民や農牧組合の手に握られてきました。

かつて、個人営業というものがありませんでした。mipyme がまだ発展していないときには、個人営業は職人の活動とみなされていましたが、個人営業という枠組みを越え、一定のつながりや関係が生まれており、組織になっていました。」

— ええ、賃金労働者のいる小企業でした。

* 『認められてはいませんが、実態はそうでした。つまり、私たちは実態を現実のものにしたのです。守備一貫としたものにした、つまり、潜在能力を生かしたのです。国有企業は社会主義建設の中で基本的役割を果たさなければなりません。民間部門は経済活動の補完です。』

— 現在、民間市場部門はどのような状況にありますか。

* 『民間部門のダイナミズムですが、人々は、「いや、でも、大きく拡大している」と言っています。実際、拡大しています。比較的新しい過程です。1万くらいあると思います。けれども、私たちは、一つには、社会主義建設という観点からですが、主要な生産手段は国家の手にあり、その代表が国有企業であると考えています。従って、経済の重みの大半は国有部門にあります。ただし、非国有部門も重要な貢献をしていることも否定しません。

経済・社会システムの完成化は相対的に新しい局面に入っています。今、課題となっているのは、国有企業や国有機関と非国有機関との間に存在するいくつかの歪みの修正です。それぞれが私たち社会の経済アクター全体の一部として、全国社会経済発展計画に寄与、統合するようにすることです。そのため、非国有部門、すなわち企業部門と交流しながら、一連の規定を両者が一体となって機能できるようなものに改革し、国有部門と非国有部門との寄与を通じて国の経済のポテンシャルを高められるようにしています。

こうした企業の多くはまた、高度技術の企業として、またイノベーション企業という概念で形成されています。そうした企業は国有部門にもあります。mipyme は国有であれ、民間であれ、その概念や操業形態からしても、変化に迅速に対応していますし、イノベーション能力も大きいです。』

— **しかも、大変、小規模です。**

* 『小さいので、柔軟に動けます。そのため、経済にもたらす貢献もダイナミズムも大変重要です』。

— **この部門は拡大を続けると思われませんか。**

* 『拡大し、私たちの経済アクターの一部を構成し続けるものと考えています。革命の敵とはならないセクターです。革命に寄与するセクターです。革命という条件のなかで創られたセクターなのです。これに対し、米国政府はこのセクターを反革命セクターにしようと企図しています。

しかし、米国は矛盾しているのです。一方では、国有部門ではなく、mipymeに資金を供与して変化のエージェントにすべきだと主張する上院議員や下院議員、オピニオン・リーダーが存在します。他方では、mipymeはキューバ国家が表面を装うための化け物なのだからカットしなければならないという人々がいます。彼ら自身が矛盾しているのです。キューバに矛盾はありません。mipymeはキューバが社会主義建設を進めていくために必要な企業構造の一部を形成するものであり、全国経済社会計画に組み込まれ、然るべき役割を担っています。この点は曲解が無いよう、注意が必要です』。

— **大統領、COVID-19 に移りましょう。重要な点はこれまでに指摘されましたが。キューバは、科学者やバイオ薬品産業の力により自国のワクチンを使い、すべての国民に予防接種を行うことができた、世界でも数少ない国の一つです。とくに封鎖に苛まれ、資源も限られた国としては異例の快挙です。コロナ危機から何を学んだのでしょうか。また、これは大事なことですが、今後、保健分野では世界に対し、どのような貢献ができるのでしょうか？**

* 『ラモネ、その前に、伝えておきたいことがあります。COVID-19 に震撼させられた世界は、今、COVID-19 から教訓を引き出さなければなりません。引き出すべき第1の教訓は、すべての諸国に強力な保険システムを作るために、さらなる大きな措置、融資、資金を充当しなければならないということです』。

— **公的な、ですね。**

* 『公的で、柔軟性のある、少数の人びとではなく、すべての人々のためのものです。

国際協力も重要です。エゴイズムはダメです。いささか理想主義的かもしれませんが、—これは人間が持っている確信、また革命の中で形成された確信とも関連することですが、ポスト COVID-19 においては世界の連帯や協力を強化することによってより良い世界になることを願っています。今は真逆

なことが起きています。世界は戦争へ、制裁の強化へ、封鎖へ、国際問題を解決するための壁の構築へと向かっています。』

— **憎しみの言説、極右です。**

* 『憎しみの言説がソーシャル・メディアを覆い尽くしています。誹謗による殺人、いじめ、憤怒、嘘、中傷、とりわけ、目立ちたがり、などです。憎しみの言説、俗悪な言説、陳腐な言説は、より良い国際関係に資するものではありません。インクルーシブで、公平さを保障し、公正な、新しい国際経済秩序が必要です。』

— **連帯の国際秩序ですね。**

* 『連帯の秩序です。現在の国際経済秩序とは正反対のものです。

私たちが COVID-19 から学んだものは何か。第1の教訓は私たちがラウル・カストロ 将軍から学んだことと関係があります。世界に COVID-19 が広がり始め、初めてそのニュースが届いたとき、キューバではまだ感染者は出ていませんでした。2020年1月のことです。このとき、ラウルは私たちにこう言いました。世界で起きていることをすぐ様、研究し、全国的な対策を計画しなければならない、と。つまり、私たちは COVID-19 に対する総合的な計画ないしは戦略を作成する能力を持たなければならないということ学んだのです。それはすべての国家機関、社会機関、非国営セクターなど、あらゆる機関を包含するものです。つまり、国として状況に対峙するために前進し、そのための条件を整えることができる「国全体の計画」(un plan/país) を作るということです。これが第1の教訓です。この計画、この戦略によって私たちは前に進むことができました。』

— **世界に感染が拡大する前に、皆さんはある程度、歩み出していたということですね。**

* 『最初の感染者が出る前から準備していました。私たちのスタッフの能力だと思います。世界の経験を踏まえたものです。後ほど説明しますが、病気やその他さまざまな事柄について研究していたのです。経験と、その中から出てくるものがあります。

けれども、全体的な概念としては、やはりラウルのあのビジョンが大きかったです。ラウルはこう言っていました。戦略を、計画を、病いへの対策計画を準備するように、と。

第2の教訓は国際協力です。私たちはすぐさま、46か国以上に医師団を送りました。なかには感染のエピセンターだったところもありました。』

— イタリアのロンバルディアすね。

* 『ロンバルディアもその一つです。市民を支援し、協力することができました』。

— そして、学んだ。

* 『確かに学びました。医師団が帰国するたびに、彼らと集まり、経験を積み上げていきました。そして経験を計画に組み込んでいったのです。

第3の教訓は分子生物学の実験所のネットワークを作ったことです。あらゆる標本を処理することができ、重要なものとなりました。このような感染症は一定の瞬間に、とくにピーク時に急拡大します。しかし、ピークではない時にはリファレンスができ、その病いの感染がどのレベルのものか、資料を得ることができます。

保健システムのなかでの科学としての感染症研究ですが、こうした病気への取り組みは概念をもって……』

— 特別なロジックあるということですね。

* 『感染症学上のロジックです。いかにして感染をとめるか。いかにして感染を回避するか。どのように行動するか。そのためには社会のすべての機関を統合すること、なかでも、キューバの場合には保健システム これは強固なシステムです と結びつけていくことです。私たちは厳しい現状のもとで、前にも話したように封鎖激化だけではなく、テロ支援国家に含まれているなかで、COVID-19 に立ち向かっていかなければならないのです。保健システムを CECMED（医薬品医療機器調整機関）やバイオ医薬品産業と結びつけなければなりません。臨床試験の期間も限られているうえに、病気のケアプロトコルを確立するためには新しい医薬品の臨床試験や開発や活用にも力を割かなければなりませんから。

科学とイノベーションを基礎とした管理システムには基本的な役割があります。そこで、定期的に話し合いを行いました。現在も続けていますが、毎週火曜日の午後2時ないしは3時に、COVID-19 に関する専門家、科学者、機関と会合をもったのです。そこから1000をこえるの科学研究のテーマが出てきました。研究の評価も行われました。ワクチンもそこから生まれました。

デルタ株の感染のピークが始まったとき、世界のワクチンの分配は全く不平等でした。豊かな人々だけで、貧しい人々には行っていませんでした…』

— しかも、買わなければなりませんでした。

* 『その通りです。そこで科学者に依頼しました。主権を維持し、このような事態に立ち向かうためには、私たちのワクチンが必要です、と。こうして3

か月に最初のワクチンの候補ができました。その後、良く知られているように、5種できました。このうち3種は高い効率と効果が証明されました。他の2種は臨床試験が続いています。大変、有望なものです。ああ、もう一つ、教訓があります。ワクチンの開発能力をもつということはめったにあることではありません。開発できた国は10か国に及びません。南の諸国はゼロです」。

— **開発能力があっても生産できなかった大国もありました。**

* 『ええ。そこで、私たちは他の諸国に技術を移転し、分かち合いました。それぞれの国が自身のワクチンを作る力を持ち、短い期間でワクチン接種をできるようにするためです。私たちは2年たらずで4000万本のワクチンを接種しました。そのためには地区レベルのシステムの構築が欠かせません。総合病院で接種するだけでなく、学校なども使って診察し、人員も整えました。社会施設でも接種をしました』。

— **封鎖が激化する中で実施したのですね。**

* 『資料をもっていないものもあるのですが、あのような状況のもとでは計算など出来ません。いろいろ調査してみると、世界では研究のために兆単位の資金が製薬会社に渡されていました。そんなことは私たちにはできません。科学研究機関に5000万を超える額をだすなど、とてもできませんでした。

あなたもおっしゃるように、「あり得ないこと」なのです。これは前にもお話ししました』。

ここではすべての機構が動いています…。

* 『フィデル・カストロ総司令官の理念の産物です。ラウル・カストロ将軍のときに形が変わり、科学ポーロという国営のシステムが、医薬品、とくにバイオテクノロジー薬の生産サイクルを集約した強力な企業システムとなりました』。

— **輸出もしています。**

* 『準備が整っていなければ、あのような対応はできなかったでしょう。ワクチンが国を救ったのです。住民の60%以上が一度の接種をしました。すぐに感染が減りました』。

— **感染カーブが下がった…。**

* 『そこで、国境を再開しました。するとオミクロン株が入ってきました。世界ではさらに高い感染ピークを記録したのですが、キューバではその前のピークの3分の1にとどまり、2~3週間で収束しました。ワクチンのおかげで免疫が高かったのです』。

— ええ、高かったです。

* 『別の学びについてお話ししましょう。社会科学の役割です。感染症がテーマですので...』

— おなじく、COVID-19 についてですね。

* 『健康問題だけではなく、心理的な影響の問題もあります。状況が変化すると社会も変わります。隔離あるいは肉体的隔離です。可能性が限られた人々、脆弱な人々をどのようにしてケアするか、です。そのため、様々な提案がなされました』

— 死亡率の問題もあります。その影響も。

* 『社会科学を基礎に分析や提案が出されました。それを保健システムに統合しました。

情報というものは、正直で、明確で、時宜に適し、またシステムチックでなければなりません。メディアでは毎日、スペースが設けられ、もっともすぐれた感染症専門家の一人がオピニオン・リーダーになったりしました』

— 人気が出たのですね。

* 『毎日、状況はどうか、死者はどれくらいか、入院者は、感染率の推移は、人々の動きはどうかなど、説明していました』

— キューバは、これまでも話しあってきましたが、このときにはあらゆる困難に抗し、保健大国であることを示し、それを強固なものにしました。キューバの科学者がどのように寄与してきたかについて、人々に伝えられることがありますか。

* 『現在の時点で、こうした学びから私たちは何を提案できるか、ということですが、私たちには多くの経験や学びの蓄積があります。訓練も計画しています。全国で行う予定です。そうした学びを保健システムに組み込んでいきます。

二つ目は、これもこれまでお話ししてきましたが、私たちは保健概念を一体化したプログラムを堅持しています。診察、緊急治療、病いの総合的分析をすべて統合したものです。

学びの中で再確認した理念があります。ひとつは初期治療の役割です。これもフィデルの企図で、ファミリー・ドクターという考え方です』

— 地区のドクター、家族のドクターですね。

* 『COVID-19 では初期の手当てがどれほど大事であるかを確認しました。今、初期治療で COVID-19 の中で学んだことを生かしています。

診断手段のキャパシティを発展させています。PCR などの利用だけではなく、COVID-19のただ中でそれを支える診断や診断技術のメカニズムを科学機関とともに考えました。

COVID-19の後遺症の研究も続けており、世界と分かち合うことができます。課題は病いに立ち向かうこと、命を救うことだけではなく、感染した人々の生活の質をいかにして保証していくか、ということもあります。そのための研究グループもあります」。

— 病気から生き延びた人々ですね。

* 『COVID-19 で使った化学やイノベーション・システムの発展を続けています。そのために会合を続け、毎週、いろいろなテーマについて分析し、具体化しています。

重要な進展もあります。それを発表する時がやってくると思います。まもなくです。臨床の成果を待っているところです。様々な種類の癌も含め、多くの病いについて重要な前進が見られます。とくにバイオ薬品や先端技術による治療がそうです。高齢化社会でもあり、アルツハイマーやパーキンソン病、退行現象の研究などにも取り組んでいます。キューバは保健の質を高めるために広範な科学分野をカバーしていますが、それは世界のレベルを高めるためでもあります。

米国政府による封鎖強化のもとでも、米国の機関と二つの実験を行っています。一つは肺がん用のワクチンです。キューバではすでに証明されているものですが、良い結果が得られています。また、最近、Heberprot-P の臨床実験が承認されました。糖尿病患者の足の壊死の治療薬です。素晴らしいレベルのもので、糖尿病の潰瘍をどのようにして治療するか。切断という、人々にとってまったく好ましくないことを回避するものです。切断はどの国でも何千ドルもの費用がかかります。糖尿病患者は多く、進行すれば切断となります。大事な成果です」。

— 話題になるでしょうね。世界の多くの人々が大きな期待を寄せることでしよう。キューバの科学が成果を上げ続けることを望んでいます。

* 『キューバの科学はこんな謎を解明する可能性があるのです。

私たちは Dengue 熱のワクチンの研究にも取り組んでいます」。

— Dengue 熱のワクチンはすでに日本にあります。

* 『開発しているワクチンは一つです。Dengue 熱には 4 つほどの株があり、一つですべての Dengue 熱に効くワクチンを研究しています」。

— それは素晴らしい。大統領、この項目の最後の質問、経済と技術についてです。あなたは技術の活用を推奨されていますが、技術、AI、デジタル化は社会を変えています。あなたはとくにキューバ社会の情報化に賭けています。進み具合はどうでしょうか。社会の情報化はキューバの市民に何をもたらしているのかをお話いただければと思います。

* 『政府は3つの優先事項を定めています。まず、社会の情報化です。ここでは「社会のデジタル・トランスフォーメーション(DX)」を実施しています。同じものに見えますが、異なります。デジタル・プラットフォームを構築するだけではなく、生活概念や行動形態もデジタル化するものです。つまり、技術とイノベーションと社会コミュニケーションを統合した政府の運営を柱に据えたDXを進めているのです。これが三つの柱で、それぞれが密接に関連し合っています』。

— 金融部門も重要ですね。

* 『学びの問題のときにも COVID-19 に関する社会の、あるいは制度間のコミュニケーションについて強調しました。

社会のDX化はすでに現実のものになっていると言ってよいかもしれません。モバイル電話をもつ人は770万人、およそ800万人がインターネットにアクセスしています。まだ十分ではありませんが、モバイル網を拡大しました。今後も技術投資をしていかなければなりません。問題はありますが、一定のレベルに達しました』。

— コストがかかりますね。

* 『世界水準から言えば、半分以上のうえです。

DX、AI、デジタル経済については活発な議論が行われてきました。それを踏まえ、数年前に「キューバ情報処理者連合」(la Unión de Informáticos de Cuba)をつくりました。関連する人員、エキスパートがすべてここに集まっています。DXを支えていくための議論も行われ、結果も出ています。

数週間後には閣僚会議に「全国DX政策」(Política de Transformación Digital del País、「全国デジタル・アジェンダ」(la Agenda Digital del País)および「AI利用政策」(Política de Uso de AI)が出されます。総合的な政策です。私たちはAIを結果だけから、つまり生産過程や住民サービスを効率で捉えるのではなく、倫理、その他、AIの周辺に存在するすべての要素を視野にいられています。

デジタル化とともに、DXやAIは材の生産やサービス部門でも取り入れていきます。いずれも生産やサービスを生み出す過程で効率の引き揚げに役立ち

ます。高齢化社会では特にそうです。少ない人間で生産性を高めることにより、多くの人々をケア していかなければなりません。オートメ化、情報化、デジタル化がカギになります。

デジタル化は行政でも進めます。DX の発展の一つとして重点的に実施しているものに、エレクトロニック政府というものがあります。政府のあらゆる活動に市民の意見を取り入れるもので、行政に市民参加の大きなスペースを保証するものともなります。その一つとして、国中のすべての、地区、州、省、そして大半の機関にデジタル・ポータル、あるいはインターネット・プラットフォームを設け、住民と交流するようにしています。

先日、関連法案が国会で承認されましたが、デジタル・プラットフォームに組み込んで国民の意見を取り入れ、修正したうえで国会に提出したものです。これによって規範が強化、完成化されました。

「キューバ市民ポータル」も提出します。近く公表する予定です。最終段階にきており、キューバ市民がプロフィールをつくり、事務所を通したり書類を出したりすることなく、きわめて重要な手続きを行うプラットフォームです。生活が大変楽になります。

こうした手続きは、すでに一定の機関ではそれぞれのプラットフォームから行えるようになっているのですが、これからは自身のプロフィールがあるプラットフォームであらゆる手続きができるようになります。住民向けの情報も得られます。手続きのやり方や法律がわからなかったり、また何か疑問があったときには、検索できます。飛躍と言えます。

DX や AI の利用については、サイバー・セキュリティを発展させて、サイバー攻撃を避けるなど、プラット・フォームの安全を確保していきます。

創造的に、ということですね。この分野では若者が活躍が目立ちます。現在、わが国にはアプリケーションのスイートがあります。キューバの人々のために国内で開発したモバイルのアプリで、機能も完全で、店ではそのバリエーションも売られています。Apklis というアプリケーションで、キューバやその他の国のアプリをダウンロードできます。キューバのアプリには様々なものがあり、その多くを住民が使っています。

キューバの OS もあります。融資問題もあってまだ限られていますが、設計図や製品もできています。情報機器、ラップトップ、タブレット、PC などです。

— **ロボット化もあります。**

* 『ロボット化も経験があります。ひとつは COVID-19 のときのもので、病院が麻痺しな

いよう、集中治療室を拡大するためのものでした。あらゆる企業に人工呼吸器の購入を断られました。封鎖、つまり制裁法のためです。そこで若い研究者のグループに依頼したところ、作製できました。今では大変改良されており、デジタル化もされています。実にすばらしいもので、集中治療や麻酔の最良の専門家、熟練医師なども利便性や質の良さを認めています。これもキューバ人としての自慢の一つです。若者も含め、科学者に何か依頼すると、すぐさま素晴らしい回答が得られます。しかも国際的レベルのものです』。

— **AI も独自のアプリを開発しているのですか。**

* 『ええ、独自のプラットフォームを開発しています。独自のアプリ、独自のデザインで、OS やサービスに組み込んでいます。

— **量子コンピューターはどうですか。**

* 『やっています。ただ、入手などはこれからの問題で、準備段階です』。

— **すでに専門家がいますね。**

* 『準備中で、専門家も形成されています。あらゆるレベルの知識を得て、具体化しています。国際交流もあります』。

— **こうしたテーマについて、ラテンアメリカの統合の枠内で活動できると考えていられますか。**

* 『そう思います。今、提案しているものの一つです。

ALBA（米州ボリバル同盟）の創立記念会議や首脳会議がベネズエラで行われたときに、ラテンアメリカとカリブ海を統合するプラットフォームを構築する必要性が提起されました。デジタル化と AI についてです。このとき、控えめにでしたが、わが国が開発したもので協力する用意があることを伝えました』。

— **教育機関でも可能ですね。特に専門大学など。**

* 『教育機関、準備、共同プロジェクトへの参加などです。各国への私たちのアプリの提供も。すでに効果があがりつつあることもあります。

銀行のデジタル化も始めています。私たちの成果の一つです』。

— **造幣したり、入手したり、購買したりしなければならない通貨の消滅にもつながります。**

* 『現金ですね。このほかジオリファレンスやジオロケーションのシステムにも使っています。キューバの若い科学者や専門家の知識や開発に対する渴望

には大変なものがあるのです。ジオリファレンスやジオロケーションのアプリもたくさんあります。収穫の予想にも役立ちます』。

— **大統領、3番目の質問グループの、国際政策の問題に移りましょう。**

キューバは長い間、国連総会で米国の封鎖について大きな勝利を収めてきました。けれども、この勝利は具体的な結果を切り開いておりません。米国は譲らず、封鎖を解除しません。封鎖の解除に向けて何か新しいイニシアチブをお考えですか。例えば、あなたがバイデン大統領と直接話し合うなど？

* 『ラモネ、あなたのビジョンは適格で、考える必要も出てくるかもしれませんが、しかし、世界の主要な大国、世界で最も強力な大国が、まったく支持を得られず、最小かつ唯一の支持はイスラエル国家だけ、というようなことが、どうしてあり得るのでしょうか。その他の諸国は封鎖解除決議に賛成票を投じています。決議は毎年のように国連総会に出されています。去年は31回目で、圧倒的多数が封鎖を非難しました。しかし、回答はありません。こんなことがなぜ、あり得るのでしょうか。心から言いますが、また、世界もそこから学び、教訓を得なければならないことですが、他の世界の意見を見下している、ということではないでしょうか。われわれ諸国人民を蔑視しているということです。まさにキューバに対する米国の封鎖がそうであるように、小国が犯罪的で、ジェノサイドの封鎖にさらされていることを全世界が恥ずべき事実でとみなしているのに、世界の要求に耳を塞いでいます。

こうした要求は国連での投票だけに見られるものではありません。毎年、封鎖に反対する決議を採択したり、反対する手段を取る国、地域ブロック、国際機関はふつうになっています。国連総会でも名前を出して封鎖に反対する国家指導者も増えています。前回の総会では封鎖問題が議論されたときには44か国の指導者が反対を表明しました...』。

— **あらゆるイデオロギーをもつリーダーですね。**

* 『ええ、あらゆるイデオロギーの人々です。例えばアフリカ連合、77か国グループ、CELAC（ラテンアメリカ・カリブ諸国共同体）、ALBA など、すべての地域組織です。国連事務局長の報告で封鎖に反対するキューバの立場を支持するよう提案した機関も複数ありました。世界では日常的に、と言ってよいと思いますが、毎週、また週末毎に、封鎖反対の抗議行動が行われ、その数も増えています。昨年だけでも2000以上のキューバ支持のデモが行われています。今年に入ってから数えきれないほどの反封鎖運動が実施されています。

私たちは米国の現政府に対し、平等な条件で、押しつけや条件づけ無しに、一つのテーブルに座り、キューバと米国間のすべての問題について、議論したい問題すべてについて、話し合う用意があることを、直接、間接に伝えていきます。条件づけなしに、平等な条件で、です。

なぜならば、つまるところ、封鎖には一方的な関係が存在しているからです。キューバは米国に何も悪い影響を及ぼしてはいません。反米手段などまったくとっていません。米国政府が一方的に封鎖を課しているのです。私たちは封鎖の解除のために好意をお願いしたり、媚びたりはしません。私たちの権利だからです。私たちは平和と平等のもとに、抑圧手段や押しつけを受けることなく、発展する権利をもっており、また、そうしたいと願っています。しかし、米国政府は決してそれに応えてくれません。

— **今の政府ですか。**

* 『そうです。現政権にはキューバに対する状況を変える意志はありません。何よりも少数者の利益のための政策を最優先しているためです。キューバ系アメリカ人で、フロリダを根拠地に行っているグループです。そのために、私たちが望んでいるような関係をもてる可能性は遠のいています。イデオロギーの違いがあっても、私たちは隣人との間で文明化した関係というものをもつことができます。そこには協力、経済や貿易や科学や金融や文化などあらゆる生活面での交流が存在し得ます。ノーマルな関係が存在し得るのです。米国も、立場が異なる国に対してそうした関係を持っている場合があります』。

— **激しく敵対している諸国に対してもそのようなケースがありますね。**

* 『そうです。では、なぜ、キューバに対してはこれほど残忍なのでしょう？ 私たちは意思を示してきました。違いはありますが、私たちは米国民に敵対するようなことは何もしていませんから』。

— **バイデン大統領はオバマ政権では二期にわたり副大統領でした。オバマはいくらか雰囲気を変えました。関係を回復しましたね。バイデンがあのような姿勢を取っているのはなぜでしょう？**

* 『説明が付きません。オバマは異なる関係を築くべく着手しました』。

— **バイデン夫人はキューバにきたことがあります。良い経験をしたと思います。彼女は先生です。この点はどうでしょう。**

* 『説明できるとすればこういうことだけです。米国では党は関係ありません。民主党員も共和党員と同じように行動します。軍産複合体というものがあります。その背後に、その陰に、もう一つの権力構造が存在しているのです。

それが米国の立場を決定しているのです。帝国の立場です。そして、ここから一つの状況が、ある利益集団への従属が生まれます。特に選挙問題のためです。キューバ系米国人マフィアの立場への従属ですね。

— 次の選挙でこうした状況に変化が起きると期待されますか。

* 『是非、変わってほしい。是非、ひざを突き合わせて、われわれのあらゆる立場について議論する場をもてるように、異なる関係ができるように、封鎖が解除されるようになってほしいと願っています。けれども、私は、封鎖は私たち自身の手で、私たちの能力、私たちの活動、私たちの才覚、私たちの知性、私たちの努力で、克服しなければならないと確信しています。それこそが、これほどの長い年月にわたり私たち国民にジェノサイドの封鎖を維持してきた頑迷さに対する最良の回答なのです』

— とくに驚かされるのは、バイデンがテロ支援国家のリストに含めたままです。トランプがホワイトハウスを去る数分前にやったことです。

* 『すべて、そのまま維持しています。

それだけではなく、キューバに対する言動も大変悪質です。COVID-19 の呼吸器のことをお話しましたが、医療用酸素の生産工場にも影響を与えました。国に必要な物をできるだけ早く買える地域の国から酸素を購入しようとしたときに、米国政府はその企業に圧力をかけて阻止したのです。本当に犯罪的な行為です。パンデミックのときに集中治療室で呼吸困難に陥っている人に、何もできないで死に至らしめるのですよ。私たちは大変な努力をして他の諸国の支援を求めなければなりませんでした。

まったく忘れられない、本当に悪質な行為でした。そうやってキューバのCOVID-19 の状況を操作するのですね。自分たちの国の方が私たちより状況が悪かったときに、です。私たちは COVID-19 に対して米国政府よりも適切に対応しました。米国はお金も富も持っている国ですよ。彼らは SOSCUBA というタグをつけてメディアを操作し、7月11日事件を起こしています。にもかかわらず、今、厚顔無恥にも、「7・11 に起きたことを考えれば、キューバとの関係に、もう一度はない」と言っているのです。とてつもない厚顔無恥ぶりです。世界に対して自分の立場を正当化しようとする嘘です』

— 特に酸素のことを話されましたが、彼らは食料にも、医薬品にも、封鎖を適用しないようにしている、としています。それもまったく事実ではないですね。

* 『ええ、封鎖はすべてに対して行われています』

— 現在、希望をもてそうな情報が出回り、聞こえてきます。バイデン大統領が予備選で副大統領に、カマラ・ハリスではなく、ミシェル・オバマを立てるかもしれません。もしもそれが確かであったり、確認されたりすれば、何か希望が出てきそうですか。

* 『今は、何もかもが全くの思弁だと思っています。今日の米国の情勢、国内情勢のもとで、投票でどちらが有利か、客観的に推測することはできないでしょう。しかも、米国民は国内の経済状況に打撃を受けています。墮胎などの国内問題、パレスティナなどの国際問題、ウクライナ戦争の問題もあります。すべて米国の世論や米国民の生活に関わってきます。今、いずれの側が国民の票を獲得できるか、正確に言える人はいないと思います。まだ、決めていない人もたくさんいます。それぞれの党の内部には党から離反する人もいます。いずれにせよミシェル・オバマのような人の報道は別の文脈の話なのでは？ 』

— **大統領、モスクワから帰られたところですが、モスクワではナチスに対する戦勝記念日の行事に参加したほか、プーチン大統領の就任式に出席し、ユーラシア最高評議会の総会でも演説されました。新たな経済同盟を求めているということでしょうか。何らかの形で BRICS に依存していくということでしょうか。**

* 『まず、モスクワに着いたのはちょうどプーチン大統領の就任式のときでした。私は招待されていませんでしたので、参加しませんでした。内々のセレモニーだったのです』。

— **私的なものだったのですね。**

* 『国の大変私的な行事でした。けれども、このロシア旅行はプーチン大統領の招待によるものでした。

そのあとユーラシア最高評議会に参加しました。初の参加です。これまでは COVID-19 の年だったため、ビデオ会議でした。以前から加入していたので、新たに同盟に加わるということではありません。ユーラシア最高評議会は創立から丁度 10 年経っており、成果の総括が課題でした。私たちはオブザーバー国として参加しました。その日はソ連とキューバの関係樹立の 64 周年記念日にもあたっていました。この関係は今もロシア連邦との間で続いているのですが、特筆すべきことが一つありました。旧ソ連邦の共和国、ベラルーシのルカシェンコ大統領が私にこう言ったのです。ユーラシア経済連合のメンバーはすべてソ連邦の一部だったのだから、この記念日はみんなのものだ、と』。

— **ソ連邦のメンバーということですね。**

* 『ユーラシア連合はこの 10 年間に経済や通商でダイナミックな発展をとげ、加盟諸国の GDP も大幅に増えました。経済発展や加盟国間の補完関係という点でも大変正しい原則を維持しています。

この連合は私たちにとっても良い機会を与えてくれるスペースです。とくにバイオテクノロジーや製薬などの分野では貢献できます。加盟国の規制機関から医薬品に対する承認を得ることができ、市場へもアクセスしやすくなります。加盟国はそうした医薬品や技術移転、また共同投資に興味をもっていますし、それを必要としています。投資家はわが国の経済社会発展計画への参加のスペースを切り開いていくことでしょう。食料主権における協働の可能性も大きく広がります。私たちは、発展について、環境の持続可能性、すなわち持続可能な発展と、環境および持続可能性の文化の発展の尊重を原則としていますが、ユーラシア連合も食料主権と再生可能なエネルギー源を目的の一つに掲げています。ですから、私たちにとって重要なスペースなのです。

BRICS は、国際関係において米国のヘゲモニーからの断絶を求める諸国にとって、今日の世界に存在するオルタナティブの一つであると思います。同時に包括的なスペースでもあります。BRICS は南の諸国に門戸が開かれています』

— **BRICS は 1 月 1 日に拡大されました。**

* 『BRICS はまた、アフリカ大陸、ラテンアメリカ、カリブ海との関係構築の意思を示しています。コンセンサス、さらなる公平、尊重を基礎とした関係です。BRICS はドルに対するオルタナティブとして、加盟諸国の通貨での取引や、加盟国が生み出す物資やサービスでの決済に力をいれています。

— **ジルマ・ルーセフが長を務める開発銀行もあります。**

* 『ええ。彼女は定評のあるリーダーで、南の問題について政治ビジョンをもっています。トップ 5 か国は BRICS の創立国ですが、キューバと大変良好な関係を維持している国々です。私たちは検討し、見守っているところで、キューバが加盟を希望していることはプーチン大統領との会合でも伝えました』

— **次の首脳会議はロシアで行われます。多分、10 月にカザンで。大統領は出席を考えていますか。**

* 『今のところ、すべて、事態の展開次第です』

— 新規加盟国については新しい形を望んでいるように思います。パートナー・メンバーとか、アソシエイト・メンバーとかですが。キューバの席は多分、あるでしょう。

* 『キューバの席はあると思いますが、BRICS の指導部諸国のコンセンサス次第です。ただ、これらの諸国の立場は首尾一貫しており、キューバの南アフリカ・サミットへの出席も認められました。国としてだけではなく、G77 プラス中国の代表として、です。私たちはサミットの臨時議長だったのです。キューバが代表して提出した G77 プラス中国の提案も十分な配慮を受けました。キューバの立場に対してもそうでした。南南関係にとっても大変良い雰囲気がありますし、今、求められている新国際経済秩序にとっても新しいパースペクティブが切り開かれるものと思います』。

— 大統領。インタビューも終わりに近づきました。最後の質問、ラテンアメリカについてです。ラテンアメリカとカリブ海では危機が増幅しています。エクアドルではメキシコ大使館に対する襲撃もありました。米国の南方司令部はガイアナに軍事基地を建設しています。これはベネズエラにとっても、また、歴史的なエスキボの返還問題にとっても脅威となっています。アルゼンチンではハビエル・ミレイ大統領が何十もの社会的成果を解体しています。ハイチでは困難に終わりが見えません。あなたはこうした状況をどのようにお考えですか。この地域で主権や平和や進歩を促進するためにキューバには何ができるでしょうか。

* 『このような事態はグローバルなレベルで存在している、あらゆる矛盾の表われであり、ラテンアメリカやカリブ海では地域全体の現象となっています。私はモンロー・ドクトリンを維持しようとする帝国の執拗さの表われであるとも考えています。米国人のためのアメリカ大陸という帝国主義的概念ですね。この大陸に生きるすべての人々のためのラテンアメリカ・カリブ海ではないのです。北のアメリカ、帝国の権力に従属したラテンアメリカ・カリブ海なのです。それは北のアメリカの、私たち諸国民に対する蔑視の表われであり、また裏庭としてのラテンアメリカ・カリブ海というビジョンの表われでもあるのです。

その一方で、今、ラテンアメリカとカリブ海には、最大の逆風、圧力、制裁、侮辱、侵略、さらには干渉にさらされながらも、革命的過程を維持している政府があります。キューバ、ベネズエラ、ニカラグアなどです。

進歩的な政府のグループもあります。左派勢力に有利な力関係を築いています。ボリビア多民族国、ブラジルのルーラ、ロペス・オブラドール、ホンジュラスのシオマラ、チリのボーリチ、コロンビアのペトロは、安定の実現や協力

や相互交流のために力を注いでいます。これに対し米国は冷静ではいられず、常に右翼勢力を動員しようとしています。大変、汚いメカニズムを使い、国を不安定化して左翼や左翼政府が権力を維持できないようにしたり、右翼を政権につけたり、右翼が権力を失うことがないようにしています。』

一 右翼が権力を維持するように、ですね。

* 『 そうした右翼は米国政府や米国の意向に完全に奉仕する勢力であり、歴史的に形成されてきた成果も否定します。破壊し、誹謗し、紛争を醸成することにより地域の分裂を引き起こします。

今日、そうした政府がいくつかあります。この大陸で米国のあらゆる政策に便宜を与えている政府です。ラテンアメリカやカリブ海に NATO 軍を誘致しようともしています。戦争を経験し、独立のために斃れた英雄や殉教者が存在する国でありながら、国の主権や自決権を否定している政府です。かれらがやっていることは、この地域を自らのメトロポリスに変えた大国への追従です。まったく不条理かつ不合理なことであり、祖国に反するものです。こうした政府はメディア・プロジェクションをもっており、主義主張などを示しているのですが、まったく侮辱的で、雑言です。私たちが考えていること、私たちのやり方、私たちが世界を建設するときに守ろうとしている方法とは異なります。私たちはより良い世界のためにすべての努力を捧げるつもりです。私もそれを願っています。より良い世界は可能です。フィデルもそれを私たちに求めていました。

私たちには倫理というものがあります。誰に対しても陰口を言ったり、侮辱したりしません。一つの立場を守るときには正面からそれを擁護します。一つの立場について議論するときには正面から議論します。私たちはメディアのショーや、雑言、侮辱、世界で良しとされているような俗悪さに溺れたりしません。

キューバの立場として、私たちは常に、ラテンアメリカやカリブ海諸国とともに、これらの諸国の主権や独立を維持し、守っていきます。各国がとるべき社会政治システムに関する自決権とともに、制度やイデオロギーの違いはあっても、いかなる諸国とも尊敬と団結と協力強化の関係を持つ姿勢を維持し、守っていきます。今も大多数の諸国とそうしています。

私たちはラテンアメリカ諸国との関係を決して断ち切ることはありません。対話によって、議論によって、また、主張し合いながら、あらゆる問題を解決していきます。どんなに厳しい問題が起きても、対立を孕むものであっても、そうします。

それはキューバのラテンアメリカ・カリブ海に対する連帯のあり方にも表れていると思います。私たちは医師や教員、また、技術や社会、経済分野などの国際協力者を、様々なラテンアメリカ・カリブ海諸国に派遣してきました。ハイチには軍人も武装勢力も送っていません。侵略もしていません。医師グループを派遣しています。ハイチのような状況を前に多くの人々が干渉や内部問題への介入を考えていますが、私たちは医師の部隊を送り、国民にサービスを提供しています。ハイチはこの地域で最初に革命を実現した国です。そのために国民は苦しみを被ってきました。最大の尊敬に値する国民なのです』。

そして独立しました。

* 『価値ある国民です。長い間、干渉にさらされてきた国民です。自由のために債務を負わなければなりません。まったく不当なことです。カリブ海諸国の国民には奴隷制への修復が必要です。ハイチにも修復が必要です。カリブ海諸国は他のラテンアメリカやカリブ海との統一を破壊しようとする米国政府の圧力をずっと受けてきたのです。

私たちはまた、ロペス・オブラドル政権やメキシコとの多大な友好や兄弟愛に感謝しています。キューバとメキシコとの関係は歴史的にも深いものがあります。兄弟としての関係、家族の関係です。メキシコは、米国政府がOASにキューバとの関係断絶を呼びかけたときに、唯一、関係を断たなかった国でした。

私たちは、ベネズエラの大義、チャビスタ革命、軍民の統一を擁護し、マドゥローロ大統領を支持します。大統領の暗殺未事件もありました』。

— 暗殺事件は数回もあります。

* 『大変なことです。

私たちはサンディニスタ革命を支持します。プエルトリコの自決を求めます。ボリビア多民族国の原則を擁護します。ホンジュラスのシオマラが遂行している役割を大きな関心を持って見つめています。CELACの役割も同じです。現在、ルーラとも大変密接な関係を維持しています』。

— CALICOM 諸国とも。

* 『CALICOM 諸国だけではなく、ラテンアメリカ・カリブ海諸国もそうですが、尊敬、連帯、友好、あらゆる状況においても解決のために対話することを基礎としています。

私たちは、ラテンアメリカ・カリブ海の平和地帯宣言の擁護も掲げています。これはハバナでのCELACの首脳会議で承認されたものです。

ラテンアメリカ・カリブ海の統合も守っていきます。これは私たちの先人たちの夢やさらなる高いラテンアメリカの統合という理想に沿ったものです。今、私が思い浮かべているのはマルティとボリバルです。マルティは常に、「われらのアメリカ」について大きな尊敬をもって語っており、「われらのアメリカ」がどのようなものであるかを明確に規定していました。ボリバルは多くのラテンアメリカ諸国の独立のために戦いました。こうした模範があるこそ、私たちはラテンアメリカの統一に努力を捧げるのです。』

— フィデルも常にそうでした。

* 『フィデルも、いつも、私たちにそれを守るよう示していました。ラウルも同じです。

ラモネ、人が夢や希望を語るときには、共通の歴史、共通の文化、実に素晴らしく、勤勉で、知的で、創造的な人民が存在するのです。ラテンアメリカのコロンブス以前の文化は、メソポタミアの文化や昔のギリシャの文化に決して引けを取るものではありません。最初に知られた文化ですが、歴史を振り返れば、私たちの発展の姿がみえてきます。時間というものをどのように計測したのか。水をどのようにしてひいたのか。物をどのように作ったのかなど。文化はそのようにしてここまで発展してきたのです。それは私たちの文化のルーツの一部です。それはラテンアメリカ、カリブ海諸国のどこにも見られるものです。

私たちの文化的富、ラテンアメリカ・カリブ海に存在する先進的な思想、ラテンアメリカの思想家、哲学者、アカデミック界の立ち位置は、先進性、大いなる研究、多大な一貫性、ラテンアメリカ・カリブ海のルーツの擁護にあるのです。ラテンアメリカ・カリブ海はまた、資源大陸ですが、残念ながら、今日では国民間の最大の格差が見られるところでもあります。

これはまた、私の夢でもあるのですが、こうした長所、こうしたすべての富をもったラテンアメリカ大陸が統合すれば、全世界の模範、人間らしさ、未来、解放の夢、そして人間というものが世界のためになされる事柄すべての真の中心となること、—そのために何を寄与できるのかという点で模範になるものと確信しています。この瞬間においても、何とか早くこうした瞬間が訪れるようにと願っています。私たち諸国民は多大な正義を求めているからです。状況は大変厳しいです。侵略があり、軽蔑があり、干渉が行われ、不平等の中で生き、プロセスからも、可能性からも除外されてきました。

ラテンアメリカやカリブ海には文字を読めない人々がたくさん存在しており、解決が求められています。ジェンダー問題で前進しなければなりません。ラテンアメリカ・カリブ海の素晴らしい女性の解放のために多くを実現しな

なければなりません。われわれすべての平等や社会正義のために多くを勝ち取らなければなりません。そのための歴史的、文化的潜在能力はあります」。

— **願望があります。**

* 『それを成すという願望です。統合は前進していくと思います。これこそがキューバが与えることのできるメッセージであり、確信であり、支援であり、模範です。

キューバがラテンアメリカ諸国にとって危険であると感じる国は決して無いでしょう。それどころか、キューバからは常に統合や前進に向けて、支援や理解や配慮を受けられでしょう」。

— **大統領、大変、有難うございました。時間になりました。**

* 『いいえ、こちらこそ感謝申し上げます。お会いでき、大変嬉しいです』。

— **有難うございました。**

* 『次は、私からあなたに質問させていただきます』。(笑い、拍手)

【翻訳 後藤政子】